
流れ星 三

深歩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流れ星 ミ

【Zコード】

Z7642F

【作者名】

深歩

【あらすじ】

流れ星に、たった一つ願い事をした。2人の男女。莉奈とあずま。2人が、そんな関係になつたのは、あることがきっかけとなつた。愛し合っている2人には、おおきな壁があつた。それは、あずまの病気。これから、2人は、いろんな困難を乗り越えて……

プロローグ（前書き）

こんにちは

美保と言います& amp; #9829;
結構な日付がたちました。

心配してくれていた読者様の皆様、戻つてきましたよおおーーー
えと、新連載…と、年末ということ、
いろいろなことが今年もありましたよね。

私は、お笑い芸人の【はんにゃ】さんにはまりました！
皆様には、笑顔になつてもらいたいのですが、

こんかいの小説は、少しいつもと違つた悲しいような、切ない恋の
お話を書いていきたいと思います！

長くなつてしましましたけど、美保の小説を読んでいただけて、嬉
しいばかりです！ーーー

今年もありがとうございましたーーー

来年も、美保の応援をしていただけるよう、精一杯頑張りたいと
思つので、応援よろしくお願ひしますーーー
思つたことなど、アドバイスなど…もらえたししたら嬉しいです。
今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

プロローグ

あなたは、流れ星に何を思っていますか？

願い事？私は、流れ星を見るとあなたを連想してしまいます。

苦しかつたな。正直、私の恋は、

いいものではないという人がいた。
諦めると。と言われたこともあった。

でもさ、どうしても、あきらめたくない」とつて、あるじゅ
ん？

それが、私にとっての、あなただったんだろう

ね。
恋つて、こんなに、辛いものだつたんだね。
胸が痛んで、はしきれそつなくらい、

愛しつつ……

今もまだ、君と一緒に、
悲しげな空に、

流れ星にお願いした日をしつかつと覚えてるよ。

ずっと、一緒にいられまあよひって

気持ち side 莉奈

私は、南 莉奈

みなみ
りな

高校1年生になる。

中学生の時、付き合っていた彼氏とは、別れた。

その人が、亡くなってしまったから…

クスリ……やつてたらしい…

いきなりおかしくなつて、マンションから飛び降りたんだ。

大すきな、やさしい笑顔の彼氏だった。

なのに、

しんでしまつたその時に、言葉も、涙さえも、出でこなかつたのはなぜなのだろう。

私は、それから、結構暗くなつたらしい。

自分ではよく分か

んないけど。

私は、前を向いて、歩を出すのが怖かった。

ずっと、弓をずっとたの……雷の……

高校に入つて半年くらゐ経つた。 夏。

「これで、終わります。」

初夏のにおいて、先生の言葉で、クラスは盛り上がる。

その中の一人に、その人はいた。 祐希 あずま。

とても、似ている。雷に似ている。顔が似ているわけじゃないけど、

感じた。雷と同じやれしさを。

雷とおんなじ笑顔を……

「よつし。かえるだおおーー！」

彼を、漢字で表すと【笑】だろうなア。

それは、何より自分が笑っているから。
そして、みんなを笑顔にできる存在だから……

やつ、その第一印象は、雷と同じ。

「……あ、そだつ南、お前も行くだろ？ 夏祭りーー！」

彼が私の方に来て言った。

「……あ……多分……行くと思つ……よ？

「なら一緒に回りばざーーー！」

「え…………う、ん」

嬉しそうに、歯を見せて笑う笑顔に、心から笑顔になれた。

心中であの日から悶々と思っていたものが開かれた。

P
M
5
:
2
5

私は、浴衣を着せてもらい、久しぶりにオシャレした。

「可愛いじさん

「ほんと?」

そう言つと、あずまは、驚いたような表情見せた。
そして、少しひつむいたよつな気がした。

その時、

バ
ン！
！
！

赤くて大きな花火が打ち上げられた。

でも、そんなことより、

赤い花火のせいなのかな？

あずまの顔が薄くあかくなつて いるような気がした。

少しして、あずまは、顔をあげた。行こうぜ……といわんばかりにその笑顔はきらきらと輝いていた。

キモチ side あります

俺は、夏祭りに 南莉奈 を誘つた。

その訳と聞えれば……

微妙な暗さが気になつてた。

訳もある。けど、

一番の理由と聞えれば、

まあ、あいつとの関係?

雷との関係が、気になつていた。

俺は、雷の家の近くに住んでた親友。

結構、女遊びをしていた雷^{あいつ}がいきなり「本命できた」なんて言つて
さっぱり女遊び止めた男が惚れた女が

本当にこの女なのかな?などと思っていたそんなとき……

俺が、莉奈の浴衣姿を見て「可愛い」と言つたら、嬉しそうに、笑顔を見せてくれた。

一瞬、ヤベェかもなんて思つたりもした。

惚れた理由も分かるわ。

こんな笑顔を毎日見てたんだな。

雷は
あいつ

「せりひ 金魚すべり……せねーせーーー。」

「うん。」

俺の鼓動は、安定などしてくれなかつた。

ずっと、

ずっと。

ドックンドックンと音を立てて、胸が跳ねる、心が割れる。

俺、なんか、分かつちまつた。

恋つてモン。

雷は「こいつの笑顔に惚れたんだよな？」

俺も、こここの笑顔をもつと見たい…

いのちで、また、一緒に遊びたい……

雷が莉奈に恋愛したように俺は、莉奈に恋をしてしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7642f/>

流れ星 三

2010年10月22日01時19分発行